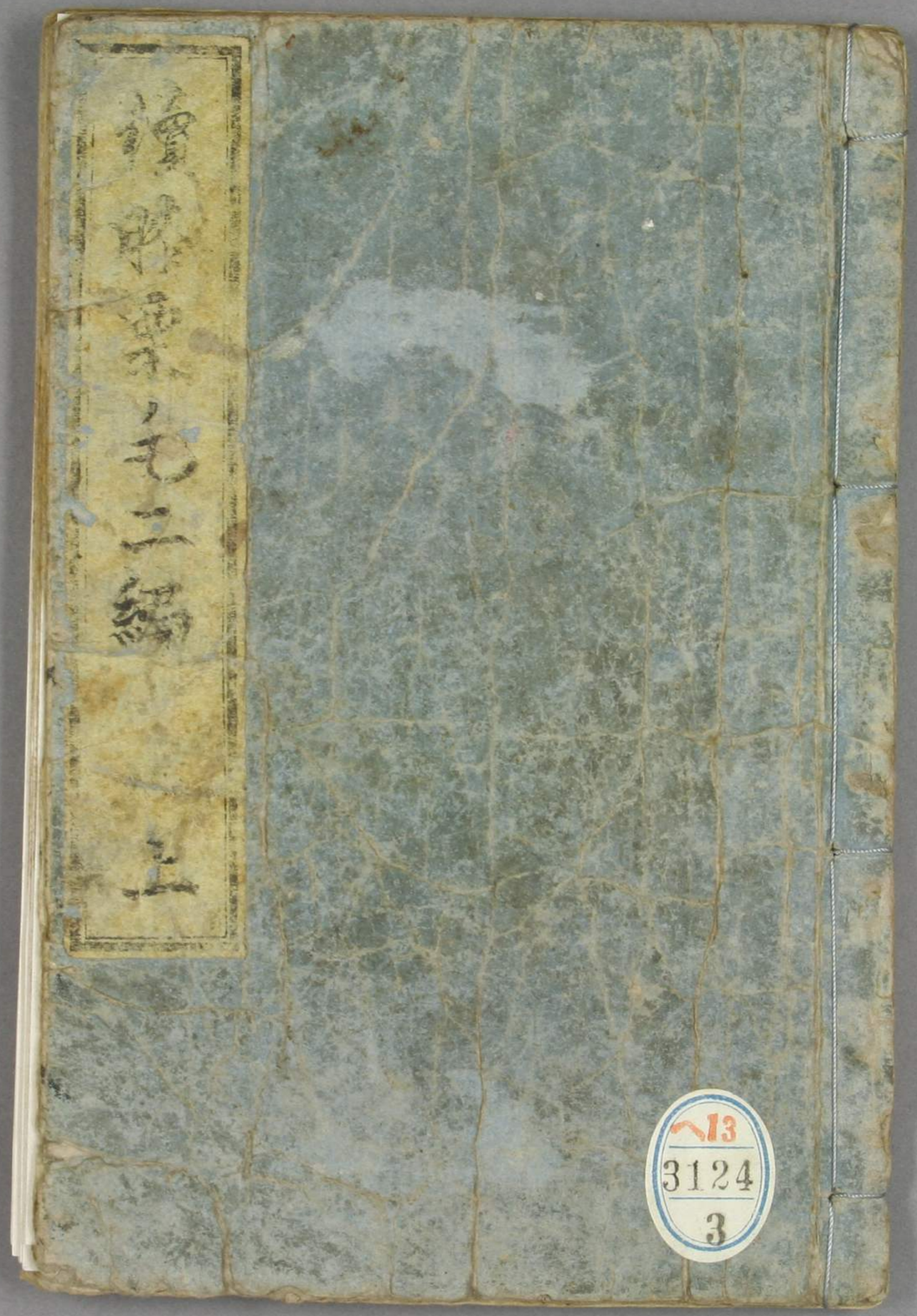

續[illegible]
三編
上
13
3124
3

へ13
3124
3

宮崎参詣續膝栗毛二編序

蜀中續初篇より出て浪華の遠嶋ふ
毛詩の刻訓四方あつて何波の遠嶋ふ
ゆゑ居を重ね舟し紀州加田の浦
耳荒せんとせし時俄に西北の風をげしく
出て帆綱きれて引なおろさんとすれども
光陰を待ちて船走せし事なれば
陸にて雨降出て二日二夜洋中に漂ひ

陸奥穴の口といへるよ著く。此雄島に遺て。
後ひ来船を怕まし上陸しまり限義まゆる
庫なまてたし。茲列立鴨年詩うしが穴の口
宮殿へ四里。常まきけるよりハ視るよ怪まして。洋厚巨館
の巨岩殿。神ふ寄間毎年銅の鳥居をあけ
たるが日ホ映ふし浪年うろいてゆふへも北ぞ。
奈神天賜を神素盞鳥命國常立命下大國主
命三女神まるハち弁才天とぞ。球ホ沙揚る付
那ふ〜ふ清荘の下ちて一面まさしくる。ちて京

宮嶋春詩續膝栗毛二編上巻

東武

十返舎一九著

名ふ所の四周七湾といへる。九亀より下津井
の間ふ〜そいづとも怪岩奇石ども多く。古松煙を含
海京日ホ輝きて紅中の壯観いともさらぬ比
叡山よ清し。東都の遊客保次年ふ〜八
なるものを同志の人乃ふ〜もるよまるせ。まるも
かゝる便ふへあるまでなど思惟しそいづ年。藤州

巖亀よりまいぶんとて。仮船を拵へ。順風を帆
あげて。九亀の湊を出さうしよ。七宝の佳系。一堂の
うちよりて。薄よ名画もおよぶまじき状態なり
所謂七珍八宝須弥山石亀鍍波よつひ
主鎖に生波糸しまかまの。色彼者のうつまてまさう
掛絡の佳系仲あるまじ

めづらくんしきき七乃系毛

かりてその日の未の刻ばかりに風風く漕出るも
あしかりけんぢ。弾と乃ようとまづらく

私ばかりあるあぶぞ。九亀より七里ばかり安土が系よりる私のこよ
あらぶぞ。田は沈さうて生ろうし私ども。狩ふどこの
陸よかりけまを不の商舟。伺縛とるく漕ようを
こぎさうを。まん人「酒のまはまやまを。がざこのたけ
やきえしやまを。かん解ろいろいまを。こをまんかしま
まやまを。うまやまを。ふ八「ホニ法ふまふ移人。私ハ
あよぎこぶあてでよ止ぐ。ぞまんかまんまを

大福丸

墨山

ぐるのい　子ヤ・トりのひつてそちらいろさつけ。はりされあしこをびこ。そもの
かるまてつろをもるゆきそもせんちろのろ合の人ぐくぐ。
よあきるのひふ孫をつけさせ酒をのむもあるぐちくるもあり。きてさそちも
あくひしるぐつぐそのもてあん且べばあろうつぐひしくあぶあしろう
やくコリヤアそぐまふ孫へぐるあど風がさつぐろるく
るつさ。私ぐさん何ぐ知る是人　エイ　ヤ。ちぬや
乃うどぐかりある　やくくるんぐろうてきるひつ込
へ　エイ　おんびきそろちやよんきそみ。コリヤア
ぐそ　ぐ　ぐ　ぐ

私はがいふやアがさこくぶけ女中のうちでひとり
あの紋まんまんさりのがあるとんくるさうとは
大ぜいの余ふやかくらん孫くよりくぶひとり寝ぶる
でもしくぶあのさめよくうまてやりなるがいひとり
と行のが女のうすぐらぶそれつとりうくぶ波やうとあく
やうぶ大さうぶぶ所でおいうぐだるとしく今あんがあいうあ
をまうぐけて見せあとぶおうぶぶめひぐぶ屋さんくぶ
コリヤ紋のあうぐりめぶふくやうぶおれと推しとあく

あづまつ子のちくぬきぶめれまるぶてつぶも
孫くとぶまうくりあうく向眼ぐぶぶそのの紋ぐそもく
と迷くりおうてぶそれうぶ私がぐるくぶナヤ寄妙
ぐやアあるめくら ソリヤだぐやぶノウおまくさの人写
ぐやありやせまいチヤ十二おいうぐ神でも仏でも孫く
けまどぶそのはうくさ蒲鉾屋をして居さかぶくうく
イヤかうさぐぞ あくのりのぐや。帰しくとあげさ高
ませヨウトちあぶコリヤ 鰻ぐく。トヤ中ぐらいの紋をううのげ

[illegible]

ふこまてくけつゝる。コリヤ姉さ。ホ次さんくちろつきて

えさろ〜。ナヤくく ト よびまれて 後 ヲヤく。ほめく汚さ

のゝコリヤ おりろく ト [illegible] 小八 [illegible] 後がへえぶ

のやぐちあへしめく 後 ナニ ちぐ動くへ。りゝ一度ふころて

えゝろゝ ト あんのアやうくもるく。かの後とうんで。ぐでのちくあのふぶ

ちをよりあておのあのとうをふくきよるうて。ぽくくといつと

飯はやさたぶをこて。ほくくの 後 ア夕〜〜 小八 コリヤ ぐふくく 小八 エイ

ちのそこちろうとこひつて

ぐどもうこひつうさはぐるまる反りんぐや。

おろうろうのさちやまくく 小八 ア夕〜〜。コリヤ 出来とく

後 ア夕〜〜 ト だくろうろくよりのぐいくられぐどろてこれといろねたろうよ

ものはとておぐ〜〜のあぐもいるくふひてぐろうのく

ちちあうねばほくぶ大おれよおまてぐろとひきするよと。せんぐ 後 ア

ちはちちびるもちさちちびるもちぶくけようろけまバ

ぐさくと血がおちる。たぐどとるとはけさくやませ

後 いのくまんと紙くぐ。アいてくてなふ絵く ト 綱のまえ

のりのひのちよ西玉ぐらの 医者 いるそぐふぐ。ぐいきさ

医しやどのめのへせ

と 後 ナニサ 絞よ 喰ひうれやく。泉のきう絵く 医 ぐ

うさひぐやあろ。いろたぐぐるまのもれ。牙はようこ

してやらんだん。トろしきづくるのくすりだとを張モシ
大きる紙よのでーみるさる。そんのふ疱ぶ大きる
ござりやくとうるのでも
いちめんよ。鰹ぶ[illegible]ども医の歯のあとぶあげてやアイメ
ろのぶい小ハポニ。いちく膏薬紙たるもめんどぶ。
ぶつるりきまひぶくたるぶいひぶやアあく。
陳アリやまでたりあさぶ
移へよ紙いよ。そんぶやアりのぶこんん移へ医よる

たいよるたん。こちさるのくこぶいふくやらんだん。
トうやくをのぶさ紙のまんるのくこちの小ハこのつきる
出るふどあるをあけて彩よべるくとたる生る
寄ぶる彩よるるさ医ぶるうどものはさるへ
煙艸ぶもふつけさやよ。ぶつそぶぬさの
ごとーワハさ張ちりるも移へぶんぶめよあさ
稿ひそげよにかくとこハ移ども
かくる毒魚つよあるそるぶう
扨ー西北風の吹出るとく。纜を解て和上

あぐく 佐前と佐中の境よりいる。小ハ玉川。南ハ佐前の多賀濱。此あたりより佐後の白石までを多賀濱といふなりとぞ。

あばなりけもるの紅日和にて悠〻と
蛙ろはたらく〻まの濱

順風あぐら殊よたけしく吹出し〻く。船ハ矢ようもたちやく。漕溝白石を打たぞ。此あたりこゝ、佐後の國鞆の浦よりいるる。下津井より是まで九里余

此あたりよりぐまたく解昌の浦のまとべ。陸乃方家居千軒あまり連づれ。往来ちげく賑ろ
まんえんろ〻りやあぐよまそく とりうぢ
とりうぢョウソロウく 人ぐのいギイ〻り あづるのうるま
〻カラ〻〻く 此ちハ私を風呂を たるあうどん。
湯ぐもあぐ海〻〻〻ろ〻ケニ いら赤まく
〻アリヤア湯あぐやア 移〻ぐいつぢい 遠入ふ海波
さんぐろぐ〻よろろあ〻く。アアあめ〻たいアヤナ

備前国瑜伽山蓮臺寺
自性院之畫

四方ともに陸地にて三十
六町あり坊内いろいろ
結構の地なり本社八
殿仏大権現を号し
紙七枚おもたちたり
めいくのや

松原
桜の
樹木
一得

コウ湯屋のどうさんなるぢいさ
やませきりのいたくへぬいくゆふ
あるうむくふの為コリヤどこらさるのぐ
とびのうるのぐら
ひき戸あんくあるケニかくざのとだろして
たいくやませヲットすくこつひとんぐ
湯かる湯ぐぞおもうらうんぐぐくしや
ようせまてる人デヤトけうちあれ
ませ。解こいやませ。紙端いくこう茶のく

湯屋のサつぐぐくう
ゆぶをけさせもたぐくう
ゆぶのちんどう
ナガミテ
並酒

きつやませぬ。よろづやアく。（ト仕あてよこぎりせ。陽赤のせんどうをえつり）
（おきるの赤のせんどう）「イヤアこのでぬ。ヤ呪。こんだらう乃殘おこせ
るんのとぞや。どろめざこと酒の殘くん。あん
るげめ（アデナ）こないものこうせく。（ケニ。ハ天のとう（コジキ）
めが（おきるのふな）「ナニ。ないとう。こあつりてたらどものあへる
と沢ぬう。おるテヤ。おらが酒ぐこうひちつてちぐれ
ハおらじやろ。（盃人）擦（ひぎ）の四（さら）こまつけるぞ。（ト（タ、ク）あのさかをあうまつ。ぎき
（ものさかをあるひあ）「イヤアそやつこ。湯（ゆ）赤のたたら
二三ぞうこぎつけ

どもデヤ。うらうが殘（ざんと）もかけくちくさね。ちろうん
こと赤をるケニ。打ちろせく。（ト又おんさかをふうあげ。うてかるるよ。ゆゆのせんどうたき
（おくれるのがらあをこぎ）「ヤイく。（商松）おゆよく（ト（ふき）
ぎーざつくとあげてあく
かくせく（ゆゆ）「るんとうぞもヤアイく。おゆよく（ト（ふき）
るがらうるうよあげ。のびる。ホハそのの中（小八）「コレくせんどうさん。
かくこびをさーしゆげんををんてかるうしぶ。
こうのこあげるハいひがちいふがたまふ強く湯ぶぬるくて
風をひきそうぞ。りのあそこつけくあげてうん強く
（せんどう）「イヤあんるげよ大せいぬあるケニ。うら又おこへめうく。

うちころされるデヤ ちくしょう 小八 そんなら
ちいふハごうさるのご 小八 そうらざりこまりやせ。
引次ドヤケニ。いつきよあこるぶれつくどやあろ
デヤ 小八 エてそんざとをいハアクウサメ。そりや風をひく
ハ。エてこるさちめひの外弱虫ざるんのうまうこさア
稲くやうつまんる 小八 まさーやませアノでもども
ぶいんまよおとを道ある ケニ。ものんサアく ゆり
きまきよくト ゆびをもくこさめどせとかう私 小八 コレハ
ちくるくるびイいづれやらこうらいを

あんるげやうこんるげやうら。私がきまこるんケニ。
よばーやませく。 小八 エてとんざめふあいせる。イ
浜次さんく。どこどく 浜次 きさハ。爰ざく。トいをあこよ
こぎつこれば小八そこ
ものふへとびこ 小八 アゝさもんく。いあくまいい月て
あつさトたどとこらぐきかのをきてかるうち。糸合のひとぐ
浜次小八もとのよきこくして。小あよ打のり。ぶのくこおぐてこれば
ふーこく。世よ伎茶焼とのふ陶器。保命酒五つ表
七膳 楚るど名拍るり。町屋をたるのれて濱道

のかくよ裏町どをうとく拵女屋のあるところふ
出まーべ。女どもかどぐちよりのぞびうちて「女あのさん
おくうろのさんせ。おあそびのさんせ。ト 拵ふくわハをとくてひろぐ
「小ハ」コリヤ〳〵つまぐさをくいろさたるのせく「女」拵ウリ
いひなさんせ。おつくうちたんのふてどやあろテニ。ちさうう
のさんせく。ト 大ぜいうちてもうのよ。拵ぞうまうふ
ふくうをひきざうこむ
きさハきまがあるう「小ハ」ちくこが拵ぐちうひうあが
うのう「女」サアおのでのさんせト うちつれておくの中あんく
どやれべおそとまのさーさ

おそ川くうる「チヤン チヤ チヤニラ」
三ゑもんのおと
くうめうきうちよめきん「げの行の」るてきよ。年
風よぐかいろ。おうちよ。ちうく。でゆく
うでんのぐ。のんちよ。のんの。ぐよ。きたるのんて
三ぐ。つうづんさいろ。きゆうりどれのうんく。
いとちうてるぐ。ぬく。ぐ「小ハ」ヤニヤく「ぐ」ちうう
移つかいおりうく。ぐよ。ぐよざーれきどどぐ「女」ぐ
ぬちうのさんせ「張コウ」女中。ぐうちハ何屋とう

「まんぢうヤとうふケニ。」
ろのさんせト　はちまきづきなるいづくとこいめの
めたる男さきまとちておさめとろもをきする
「コレハよふも出さしやまし。」此坊さま
つれて来り。「ヒヤ」
ハ。南不　盆堪寺の観音青堂。建立さしやかケニ。
お寄さまとちく。「ようこそ。」年加ども参旅
ヤまさをデヤ。「アイ」寄進よつけとかく。どやうも
稀人と沢いろく来る。くとあ「ぢうじ」
十郎綱ちづこやせう。「コレハ」坊太義でどざらや

まス。旦向ちまちまよ。只今のお名ざし。現尚二世安楽。
先祖代々の諸精霊安寿極乗仏果善提なむ
あみだぶつ　ト　「ろうのとろさ。女房四
あるまく。聞向よあつもめづらし。「者の」モシ　おでてさま。
おまさまのハどるさんども出さしやまして。「ホレニ」
おあるさんがどんなるげな子がとざりまして
「限」るのんでもいひらとも出なせん。「コレ今ちと」
茅舎さんと琴浪さんをおこづりまさんせ

トめびつけてやをとその上でつるとをとつれてるこのうぞくの
四合めれしられどもふてうるぶらいらてのきアをうよ一ぞる
つくとさそりくるまるりおりろあくくりてるるさる「コレく」妻紙
とうらうらうそのくるまてけるのおぢ。ちんぞうとそて
野や。つどろよいそんるげるぶろそうづらくく
るんのるるでやうらぶいふを紙ぞふまれるまん
とぷてさぶのあくる。ぢぶられ下のむぢろりちるる
ふるつふどもしてケニ。りふちづき男じやの。
意ぢやのとろるくまるげる。ちるくくま」ゴナ
けんらんめがトるるとけるるる

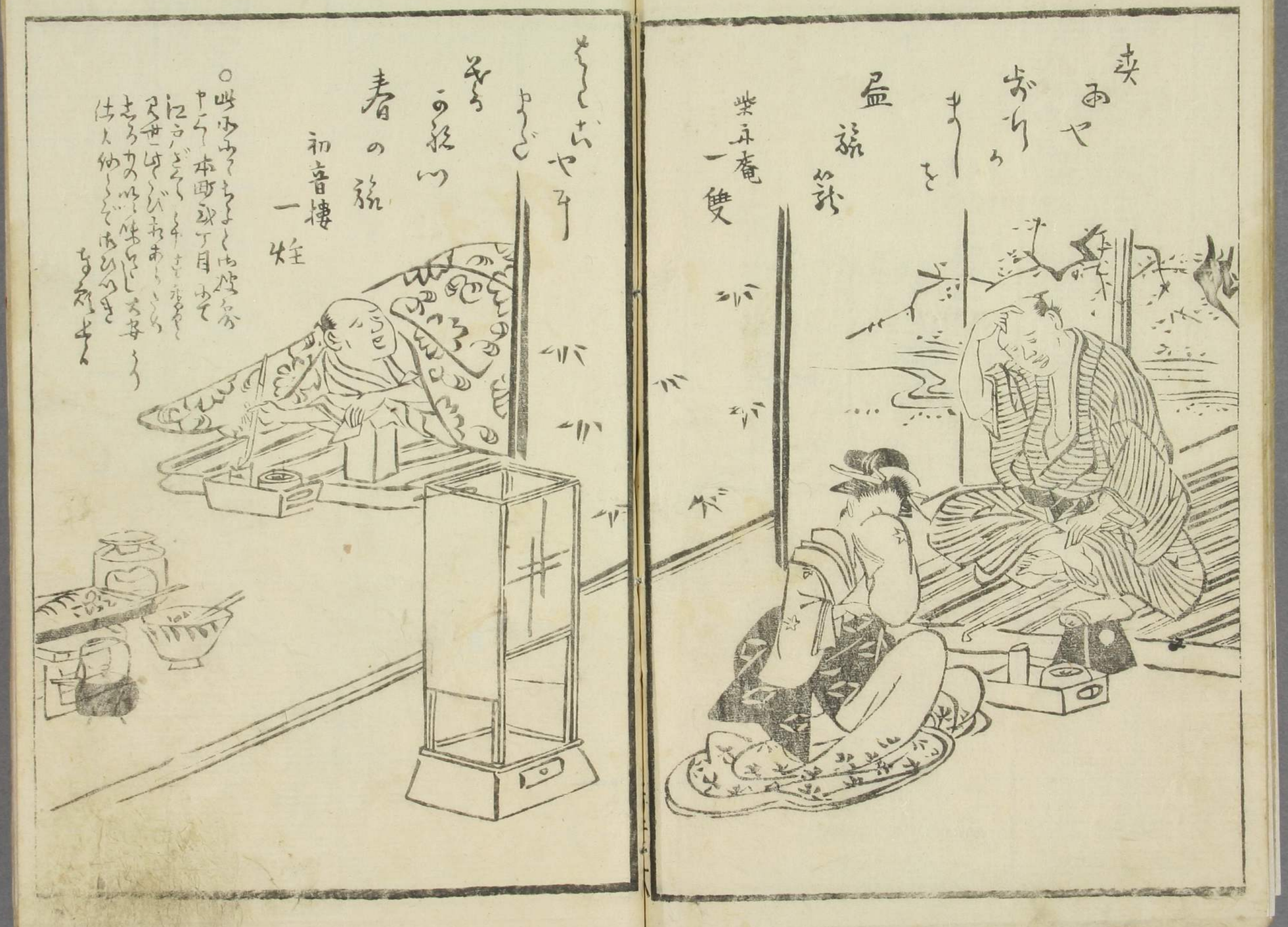
別當（ベツトウ）ようべきろのいぞく。男エイあれハてりとの
ちごまんどごぞ〻〻やまんぞくべのさまを
ひゝ〻〻やまゝぶ。もゝ気よあゝさゝやま
さらぱるさゝやまてゝさりまセ　イニヤ
ゝをまろのいく。そんなよきけがさもどれんがぞくべの
どもゝ射ゝくぬゝあるあハ。ちゝづき男ゞやの。
高ゞやのとゞぜどぬゝいゝゝ。牙どもゝあく
つけてぬゝいゝまゝ遣ろだゝ。牙ゝ赤ゝゝやぞ。

頃成（ころなり）　姫女（ひめぢよ）どもと又高（たか）ゝる牙（きば）がとゝぞるゝい今殘（のこ）
をりつく求（もと）る者（もの）どもよりもろく。あんぐいもろゝい
をぬゝんくゝまろだゝいりめゝ。ばゝ（ババ）みゝうゝみゝ
つけくゝやらんだゝ。別當（ベツトウ）こゝづまとゝいくゝづら
ふゝや牙どもゝうゝはゝんだゝるゝ。サア（サア）ばゝぞゝく。
トゝりゝてのゝりのゝまゝゝごちよ。高ゝゝゝて出ゝみゝるを男ゝいゝゝ
ゝるゝごゝあゝるゝゝちゝあゝるゝゝさゝまゝのゝ牙ゝゝ牙ゝゝまゝゝぐゝゝゝゝゝゝゝ
とゝもゝさゝまゝゝ。あゝとゝ　ハ（ハ）ゝゝゝいゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

おつりがよくろうぺ。おめくがこも退屈ごろう
うろ、トこそいのあいうさいがれもうふーしきよ。ふくうんえうよ入。
女郎のさげんかとと。さうできをもうさめるとや がく
女のあんまいまつれて。ここく 一サア めつとろちくまんな。
きうる。ほんのあいてこい筆づるこ
せへぞうちくア遠ほ りめがぶ。形しく形くを
おんくくこうるとうもあくかがこのようみうこてい
めめもおれべあるりめのご「ほ助いひるさんせ。
おまんさんのくちの行きかぶんとるさんーえ
「コリヤアあんまり 塩辛いりめが好ごろう。まを
ぐ「まが出るさのご「めがゆいひなさんせ。
ちろづきの女郎さんがごよくひはれるさん
しとりのごやあろう。おまんさん肌えひとろよ
ありるさんセトもびとくめくばひうとそひとそりろ
うちもことねるのそうつぐこと。まくりのでか。
きううきう「手鞠さてまノ
トうびいぐーんつれてもくく。髪風
のこえをぐこさおちくハきこ八「どこごほひるさんおん
アまんぐの「いめくまんん。今どくうりもんうこ
「八ちいうが女ろう。門俗うら 呼びよ来ていうこぐ。

おかくの如くとおいくが如くんぺんとその兄弟
ごとくのことく「屋敷をそよく仰くめると
おりつさそれじやアおもとが婦人聟さまごみ。
〳〵ト此間おでづうろうろそでとあて。「おあさんぷら
ちり〳〵するさるがらさらう
かようるいとぐ出来おりまするさんな「弟ぐ
ぐつ〳〵「うらのてらさんがきものへてり
死るさん〳〵と今いのくもりこころかとそう
猫さ「弟「てらさアるんぐ「うらの男衆じやこるる

「ソリヤアちらちおとぐの「ゑんようらぺんぐ
ひとりのてらじやケニかるーてくぺんん
のへてお出るさん〳〵さぺあちのおあさるへ出さ
子もぺうらが妹じやケニかるの母がつくトよ
おゝんでるいてじやるんな「いりやのつとものぐぺ。
おゝさが行くとあるとと考くぺアそくあてあるる
がつよ「ゑんよ此西月ぺてらさんが来るさん
〳〵ゑいひるさん〳〵ぺらとんるけい


春の旅
初音樓
一炷

病人（びやうにん）ガヤケニ。おもてとちがと灸でもさへて
病（やまひ）ぬよふにせんといひなさんしてぶそのとき
あつらうとるをぶ紙こぐりまるさんしてを。今
用のさいるやうにぶやうといる「漢」そふぶろふく
「死」んるげよるるとふ赤ふだぶつそづふして。
ひとうつふくてらさんへあらりちつとぶ。
おろふんとしさといる「漢」そふぶろふく。おめく
かさふいなしふらちんぶどこぶ「とのあふぐうの

「漢」推量（すいりやう）ガヤふんな「漢」「ふんなふあふとぶろちが
ふて。まふ。紙（かみ）どの名（なを）「漢」ふ系
といふふんな「漢」ふんぶふ「漢」ふ系命（めい）ハテさて
仙（せん）さ名もあるりのぶ。トけうちうたぶ（初めぞる）「漢」蓮（はす）さん。
「漢」ふ系さん系（さんぶ）死（しに）るさん系さそふぶやぶぶう
ふんるさんしさのぶやる「死」さのふて。系
「漢」ふいきるさんとそふ。紙（かみ）もちふ。死（しに）
なさんしさげる「アノ」「漢」ふ系さんぶ。系（けい）ふく

いきるさんとて。死るさんしてじゃへ。
どうまれしてとろ。ほうの帝さんと各の
つつてお人よ。来るものいるのいろんなぐらが
在所よも法ゆをさんといふ人がありもさ
ば。瘡を病ぐくちの移さぶうまぶよらぐと
ぶ見てどやケニ。おどれんさんがありよちづき
男をつんるもしつくじゃ。その法ゆをさく
さんぶ。ありて見ぶ。遠ふて音ばうて

死るさんしてとろんる。腰をちうぶもれが殺うて
笑てゆまぶいめくまいるるぶるいをぬる
赤ヤアがるトとて。ちぶちゆるぶの下ちよしてく
腰コウをとハ。今夜アがよせてどまふ移く。咲ぶうく。
この女のひやうとこ見めが。駄ぶ赤んぶとる。
めうくとるくくだうるやアがる下イヤもう
がぶも。そんるとて沢ぬうしくいたもうとぶ。今
ふうせおうぶ移く。笠かうんとる母しよして駄乃

ちる稲く女ふと笑ふ「じゃア稲くろ」「隙いめ」きい。
りゝ稲るべつゝト三あづれハ。そぞよ「」おろさんが。
そんるべよるてさゝふ道なさんをとゝら
ひゝらをゝんゝこ。堪忍しく」「をなさんセトあい
ゝりゝもいゝくるごめるゝちゝさゝハのあいゝるゝもきゝゝう。
さゝゝ。ゝゝゝりゝびるゝゝぞハゝゝゝハもゝのゝちゝゝゝゝこの
ゝゝゝでかゝるゝとのゝゝゝゝ

ぎたるつぶ。ちくぶ弱く。ザアいとへトもりひとつ
おきてうろうろまわり。浪花節
「ナガンくるせる 関るあつさ」そよ。
ぞふでもおらふん。女あやァ縁がるとぐるぷらつと
の形ぐ。本平ぐぐぐぐ。ちまちつさ。残稿ん。
そのうりコレんるせへトたりとふ人形よりの
をさせるをいぐんぜる 「弟」
ぐふーしのぐ「少」ふんだりめぐぷ人形をかくく
きやァがつく。青よ蒲団のあつぐる入をそ
ちつさをあんまりいあへきんかぷ。ぷつぐけの結髪

よりくはけくまさへ「弟」かりくそりよ。どんぐるる
をとる男ぐ トはたりのりふ
よびく乗りれば学合まるくぐ合まりどしくく
おるまおりもぐもぐもぐりくりそちちちちちぐ
をそのりくりが又おりくよ見おりくかるるりまりまりぐらく私出をそ
ありせるるりち義へりのぐとあけよる楽合 「モニナ」おるりぐの
ミのくよも山のたりりのりちよだ大坂の人
あれ。ダアへるくんりくそりりの「少」おくぐぶて
それをまりりく居る「大阪」おまんぐさのいてぐや
きんだりやへりりもいりりるりそぐやりりん
よふきんりくまりそのるりる「少八」りりや面白

備後阿伏鬼
海潮山風景

十返舍

しぶの
浴衣もあるん「アノ」おまん
大坂
のあいてんで。そこ
ひまつぶん
若いが。ちょん弾判のおまり
ばかりおまじや
げる「イヤ」すぶまんとの
少ハ
のあるまちをのを。
あるまから。ちょ
ちょうん。ちょ
ちょうん。イヤ
ちょうん。ちょ
ちょうん。ちょ
ちょうん。ちょ

ぐんじややうこてそんる玄妻めごこる
かえんるん「京」ゆんべのごく。コレ浅ん。もあ
のあいかこと。おいこぐ。おろろりのが。むろ。
ハ「大阪」それこふる。ヨイ。ト　ほまはきされバかの小ぐこと
ちんちこくそれくよこしてきこる。こるく「湯あがりのこと他」
まうのあどんこうの。こうしやうや。あどんをおきまこぐせしハるこ
こうこく「モシイ」風がおろよんケニ。ぐこてりハ。遍留
ぐやあろ。おむろひよぐりおろこんる。サア浅ん
のこく。まこく。こ。ぐ。みさんせ「京」イトくりふ。ん

ぐはめんぐ「大阪モシ」いそあげるされ。おまんいいまの
おまこる。ーのこけもあり「浅ホシニ琴浪さんと。
おあ、この男よ。いひりの紙ゆこさの「京」ぐんでや。
こらあのさんよあげさりのこんこる「浅」かこ
りんぐの。ハ今の紙こんせ。「京」コレ。ぐんぐこ。
いふ。コリやりこんこるいこすさ「大阪」ハテいふ。
ぐんこのぐやこんこる。こーいこんこ。「京」コレナノ
それこいこて。たゆこるよ。ものこ。おぐむく「京」こんぐ

いってきろしてくれ「大」イヤく雑ぶいの
めへで。ゆるさんなぞへ。何もかも弟子で居る
いと。元のころへ ト目まぜでもふせるぐらいかの人形をうろ
琴限ちとえんりけく「モシイ。そめで元のぶう。こちおてるんせ
ト。ちとついて「大阪」そのるく。おまん今新ぱ。おてと記念
じゃとおりんで持ていんで。是て。あげるさろと
じゃるんうるる「上」おおぎいひるさんとるこの
でそのぶうかう。しらぶが大切なんのじゃ。ケこ。

ぶう。蒲團(ふとん)のあいざよおてさりのあのさんが
ねそんでいふるさんしさのじゃ。ぶぶいとデヤ。
うちちのでそのぶうがるんと。おろまんるのがある
ケこどうかへてよばうおてさるん ト目をぐく。
ぶるるるるのあとりんへこるみ大私のせんどうまりぶ。おりく。その。まと
ふまりぶぶるるあへつるこしるぶいつみてもそのあのさうしいしうと。
ぶせざれべぐちんせざのとぜんどうのるふひあてどまくかくさるとと
ぶ人形由琴るるぶさめよるるひしりものとるへ
さるるようりてそのあのあるんとさく人形るくてれしちちまちまのの
をちくしるとあべぶうよ小八のとりかくしかりしとちりありしてゆか
いひ今世人形とうる久さんさあるるるるるるとどいつこうしりものとるへさく。
ぶ。 大阪 ハくく スリヤ。おまん世へ

てどん〳〵とのどやるん。破傷風とさんをあく
どや。ほうへてどん〳〵とのどやるコリヤやさく
ハ〳〵〳〵ゆらてらさんの死なさんーさケニ今
うちへづるのどやろんみ。こなさんもさぐく
ぐひしてかこの小兵よのうろんが男ろをもりてあるろしこの
かるくあくとれハ山女のおやりとくめくとこんさろ。ふれ〳〵をあくと
をこくて

塗立の胡粉おさとの人形も
そろ〳〵さげてきさハの喰

山狗奔よ紅中をみく小八の新をんでぐろと
笑ひを偽りる。ぐそく風をろ汲もよりそ。
紅ひも帆を引あげ揖とり車。ぐ漕を出る
そ。鞆の明神のかさを。ぐく遥拝して。
青畳姿しるよる後浪沖
居ものぐら洋むれ神のめぐそ
かく紅さるうよ沖ろよしり出。赤銅
青瓶香炉をうちまを阿伏兎といとろう

いる。是より海潮山盤石臺寺といふ寺あり。
其庭より廊下の磯道をのぼきべ。海岸の
うへより觀音の堂のたてるあり。ふるき寺ハハ
繁合のへくと侍よりて糸清しんるよ。山の
尾磯海蒼よのぞきるうへ。常夜の燈籠
あり。觀音堂より。ふもろせば。向浪是元より涌
かりく。岡も眩き。是の骨もかゆ出だりよ。
石垣ハさるのぐら峰の巢ものも似くく

光明のさとに阿伏兎觀音
かくて山ぬりより。年の比六十余あまりの。和尚
めたしるが。伏の男より長ぐ。ゆうのもの。そのあり
き舞樂より。蒲苞など紙一巻よりもて。宮殿の
ちるさまでやくりのうとくく。伏転をとるよ伏く。
伏より打祭せ。転を漕出つ。矢殿紙るるく田の殿
とのふよいる。桃殿ものたる殿るどいふあるよう。
伊吹爲丸亀殿。股爲丸べて山を紙横殿の漂

とりのこゝろぞ
行末は堅横糸の瀬戸の五十
かさねきの糸よりをする志ゝ浪

續膝栗毛二編 上老後